

授業科目 家族関係論

【担当教員名】 米林 喜男	対象学年	1	対象学科	社会
	開講時期	前期	必修・選択	必修
	単位数	2	時間数	30

【＜概要＞又は＜一般目標：G I O＞】
 人間にとって最も身近な社会集団である家族について、その歴史的変動、形態と機能、発達課題、家族解体(健康破綻の場としての家族)、多問題家族への福祉援助について講述する。

- 【＜学習目標＞又は＜行動目標：S B O＞】
1. 家族は社会生活の基礎的な単位であることを認識する。
 2. 過去の家族と現代の家族との異同を知る。
 3. 家族の変貌が人間に及ぼす影響を修得する。
 4. 社会問題としての家族問題について理解する。
 5. 家族のライフデザインと保健・医療・福祉との関係を理解する。
 6. 患者・障害者の在宅ケアとケアマネジメントの課題を理解する。

回数	授業計画又は学習の主題	SBO	
		番号	学習方法・学習課題又は備考・担当教員
1	家族とは何か、人間家族成立の3つの前提とその動向	板書ならびに資料配布に基づく講義の受講と質疑応答	
2	家族のライフサイクル(生活周期)と各段階の発達課題(家族の発達課題)		
3	多様化する結婚、晩婚、非婚、配偶者の選択(夫婦関係論)		
4	少産少子時代の親子関係(親子関係論)		
5	変わる出産環境と進む育児の社会化(夫婦の共同課題である出産と育児)		
6	老親介護とその介護機能の変化(老親と子の協力関係)		
7	縮小する家族機能—ア行・リス、カコト・パ—ソズ、戸田貞三、ビ—ター・マド—ツカの学説を参考に—		
8	前近代、近代、現代の各社会における家族の特徴		
9	直系家族の典型としての日本の家(いえ)制度とそこでの人間関係		
10	健康破綻の場としての家族—増加する各種の家族解体—(現代の家族問題)		
11	健康破綻の場としての家族—増加する各種のファミリー・パ—イソズ—(家族福祉と社会福祉)		
12	家族と医療化		
13	家族・親族ネットワークと専門職・ボランティアネットワーク(在宅ケアとネットワーク)		
14	家族の4つの未来像		
15	まとめ		

【使用図書】	＜書名＞	＜著者名＞	＜発行所＞	＜発行年・価格・その他＞
教科書 (必ず購入する書籍)	特定のものは使用しない。			
参考書	随時紹介する。			
その他の資料	必要に応じて印刷教材を配布する。			

【評価方法】 記述式の筆答試験を行う。 なお原則として授業時数の2/3以上の出席により受験資格を得る。	【履修上の留意点】 家族は最も身近な共同生活の単位であるから、自分の家族生活の体験を客観的に検討し家族を科学的に研究することをめざして主体的に学習してほしい。
---	--